

取組みの主な進捗状況

生活のDX

「ふくい はぴコイン」の運用を開始しました！



迅速な給付金支給や地域経済の活性化につなげるため、スマートフォンアプリ「ふくアプリ」を活用したデジタル地域通貨の利用を11月から開始しました。プレミアム付地域商品券やボランティアポイント、子育て支援「ふく育ポイント」の付与などに活用しています。今後、市町や民間企業と連携し、利用範囲を拡大し、県民の皆様にご利用いただけるよう取り組んでいきます。

産業のDX

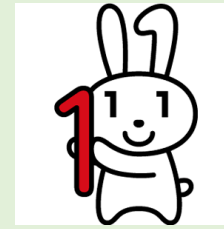
新技術の特別体験会を開催しました！



ふくい産業支援センターが県内企業向けに、新たなデジタル製品の特別体験会を開催しました。現場での機器操作をハンズフリーで行えるAR（拡張現実）メガネや、工事現場を3Dで再現するシステムなどを紹介しました。今後も県内企業のDX推進・支援に努めます。

行政のDX

マイナンバー総点検が完了しました



マイナンバー制度に対する1日も早い信頼回復に向けて、マイナンバーと個人情報が正確に結び付けられているか、県内自治体で総点検を行いました。結果、県の身体障がい者手帳において5件の誤りがあり、直ちに修正いたしました。今後、再発防止を徹底していきます。

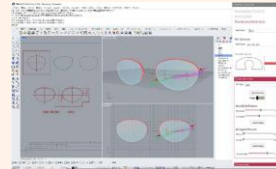
三国湊の賑わいづくりに向けたハッカソン開催！

地域課題を市民と解決する取組み（シビックテック）として、三国湊の賑わいづくりと歴史の継承をDXで解決するハッカソンを実施しました。観光客の疑問に地域住民が回答するアプリの制作などに取り組みました。今後も公民が連携した行政課題解決を進めていきます。



眼鏡のデザインを支援するプログラムを開発！

県工業技術センターが、眼鏡のデザイン作業を効率化するプログラムを開発しました。定型的な調整作業を簡単に行えるようになり、デザインに要する時間が大幅に短縮されます。今後も企業の生産性向上を支援する研究開発を積極的に行っていきます。



アナログ規制の見直しを進めています

書類や対面等での手続き、目視での検査など、デジタル社会にそぐわないアナログ規制の見直しに取り組んでいます。665の規制を見直ししていくことで、県民皆さまのお時間を省き、利便性を向上するよう取り組んでいきます。

目視規制 常駐専任
実地監査 書面提示
定期検査 往訪閲覧
対面講習 記録媒体

最近の県の動き

国際展示会で県の取組みを紹介しました！

賢頭副知事が10月に幕張メッセで開催された「CEATEC 2023」に出席し、県民・産業・学校と一緒に取り組んだ「交通安全DX」の取組みを発表しました。



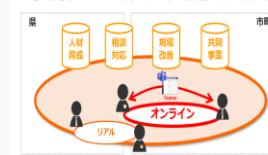
先進的な地方のDXを評価する「Digital田甲子園」において内閣総理大臣賞を受賞した取組みとして、紹介しました。今後も県民や民間企業と連携し、身近で便利な生活のDXを推進していきます。

チャットツールを外部にひろげ、公民連携を強化！

県庁内で業務利用しているコミュニケーションツールを拡張し、県内の市町や民間団体と、一つのチャットグループ上で、簡単かつ迅速に意見交換や共同作業が実施できる環境を整備しました。



市町と一体となった「全県的なDX共同推進体制」(今後の展開)



本県では、県内市町や民間団体等と協働する「政策オープンイノベーション」を推進しており、子育て政策における地域の声の反映、除雪業者等との円滑な業務連携など、取組みを一層進めていきます。

デジタルを活用し幸福実感を実証します！

慶應義塾大学 医学部 医療政策・管理学教室（教授：宮田裕章）協力の下、池田町の「脳べるプロジェクト（健康づくり政策）」と連携し、11月から「健康ポイント実証事業」を開始しています。健康アプリを通じてカウントした歩数に応じて、地域通貨でポイントを付与する実証を行っています。これにより、歩数がどう変化するか、運動により幸福感が高まるかなど、県民のウェルビーイング向上を目指した分析を行います。

